

## アジア編:

### 高機能モデルへシフトする中国のプリンター需要

中国のユーザは、より充実した機能を電子製品に求めている。プリンターも例外ではなく、レーザー・プリンターや複合機能付き機種への人気が高まっている。中国では、2007 年にプリンター・コピー機の出荷台数が 990 万台（前年比 9.6%増）、売上高が 25 億 8,000 万ドル（同 17.6%増）に上ったと、調査会社 IDC が発表した（5 月 6 日付）。2008 年の出荷台数は、前年比 8.0%増の 1,070 万台になる見込み。また、2007 年第 4 半期について出荷台数を機能別に見てみると、プリンター機能のみ（単機能）のインクジェット機種の市場シェアは、同年第 3 四半期の 31%から 23%まで減少したのと対称的に、単機能レーザー・プリンターは、およそ 30%のシェアを占め、ユーザの関心が次第にレーザーに移りつつあることを示している。また、インクジェット・プリンターでも、複合機は依然として高い人気を誇っており（ただし数値は不明）、今後も伸びが期待される。2007 年の売上高成長が出荷台数の成長率を上回ったことと並び、中国のプリンター需要が高価格モデルにシフトしていることを示すものである。こうしたユーザの嗜好に応え、Hewlett-Packard、キヤノン、エプソンなど中国インクジェット・プリンターの主なメーカーは、すでに複合機に力を入れているとのこと。また、インクジェット複合機よりも値段の高い複合レーザー・プリンターについても、特に中小企業向けのオールインワン機種の需要が高まっており、こうしたレーザー・プリンターの生産が急ピッチで進められていると、香港の調査会社 CCID Consulting が報じている。